

うれしいご縁ができました!!

道南

2024年01月23日 配信

第3種郵便物認可

北海道新聞

えさん小体操が縁 手話で交流

函館聾学校（深堀町）小学部5年の下田大翔さん（10）と、えさん小（中浜町）の5、6年生が同小オアシナルの「えさん小体操」を通じてリモート交流を深めている。音声聞き取ることが苦手な下田さんが入院中の体力づくりとして「えさん小体操」に取り組み、同小にお礼の手紙を送ったのが始まり。相互訪問も計画しており、えさん小児童にとっては手話や聴覚障害に興味を持つきっかけにもなっている。

函館聾学校生とえさん小児童

「メリークリスマス、良トは何がほしい？」「好きなお年を」。昨年12月21日、な動物は何ですか？」など、下田さんが手話で伝える。互いに近況を報告し合い、と、えさん小の児童もそのみんなであえさん小体操を行動で教わった手話で応じた。交流はいつでもオンラインで同月だけで3回行っていた。「クリスマスプレゼン 下田さんは、補聴器をつけて日常生活を送っていた。手話を交えながら授業



画面越しにえさん小の児童らと「良いお年を」と手話で会話する下田大翔さん（左）と田中心奏さん

リモート活用「聴覚障害学ぶ機会」

を受けており、この日も下田さんが聞き取れなかった話は、担任の高橋瑞祈教諭が手話でサポートした。下田さんが昨年入院していた時に、体を動かしたいと考えていたところ、聾学校の教職員が「えさん小体操」を見つけた。DVDを見て動きをまねることができた。この体操を選んだ決め手になった。さっそく同小からDVDを取り寄せ、体操に励んだ。今こそ足をピンと伸ばせるようになったが、「（当初は）筋肉が落ちてしまっていて足の曲げ伸ばしがうまくできなかった。体操を繰り返すうちに、次第に体力を回復できた」と振り返る。

昨夏、下田さんは「DVDを送ってくれてありがとう。えさん小の皆さんに会いたいです」などとしたため、お礼の手紙を同小に送った。同小5、6年生からも手紙が届き、大好きな

えさん小体操 児童に楽しみながら運動習慣を身につけてもらおうと、同小教諭らが考案したオアシナル体操。脳の活性化を促す軽快でリズムカルな音楽に合わせ、椅子に座った状態で肩を回したり、椅子に手をつけて片足を上げたりを繰り返す。自宅でも体操ができるよう、動作のポイントや体操の流れを紹介した動画が動画投稿サイトYouTube上で配信されている。



ムや食べ物などをテーマに、手紙で2、3回やりとりした。

オンライン会議システムZoom（ズーム）を通じて初めて交流したのは12月になってから。えさん小体操に取り組み、楽しそうに体を動かす姿を画面を通じて共有。2回目からは聾学校3年の田中心奏さん（8）も参加している。下田さんは、「えさん小の子たちが、手話を交えて話してくれた。うれしい！」と目を輝かせた。えさん小の長浦紀華校長は、「子どもたちにとって聾学校の友人と交流する貴重な機会。手話で話したいと自主的に勉強する子もいて刺激をもらっている。今後もこのつながりを大切にしたい」と話す。

今回は「総合的な学習の時間」としてえさん小児童が聾学校を訪ね、手話や聴覚障害について学ぶ予定。下田さんはそこで、視力、聴力、話す力を失いながらも、社会福祉や人権のために活動し、19937年（昭和12年）に聾学校を訪れたヘレン・ケラーについて調べた内容を同小児童に紹介しよう」と計画している。

（千鳥綾香）

嬉しいご縁ができました。ありがとうございます。

えさん小学校の5、6年生の皆さんが、本校児童と交流を始めてくださいました。新聞社が、えさん小と本校を交互に訪問してくれ、記事にしてくれたのです。

私は、12月14日に実施したオンライン交流を小5の下田君と一緒に見ていました。本校の下田君は、なかなか会えなかった友達に会えるかのように、親しみを込めてテレビモニター越しに話し掛けていました。また、えさん小の皆さんも手話に興味をもち、お互いに質問をしながらやさしく受け答えをしてしてくれていました。何とも微笑ましかったです。様子を見て、このご縁に感謝しました。

下田君は、この交流に至るまでに、体操の動画を送ってくれたお礼を書いています。お返事を書いてくれたえさん小の皆さんに、更に熱烈なお礼の手紙を書いていたのです。「返事を書いていただいてありがとうございました。水族館の写真を見てぼくも行きたいなと思いました。一番楽しかったのは何ですか？交流オンラインの時に教えてください。・・・」などと、親交を深めていったのでした。

このきっかけは、下田君が病院で運動不足になったときに、校内の教職員で行っている（子どもに関する）「情報交換会」において、学級担任の高橋先生が下田君のことを情報提供してくれたことから始まりました。私がえさん小体操の事を話したところ、教頭先生がすぐにえさん小に問い合わせてくださいました。すぐにえさん小の教頭先生が応じてくれ、送ってくださったえさん小体操の動画を全職員で共有しました。私は、えさん小の長浦校長先生にお礼のお電話やメールをさせていただきました。14日の交流終了後には、次のような情報提供をさせていただきました。「地域の深堀小学校や駒場小学校でノーマリー教室として行っている「聴覚障がいの理解（手話体験）」の授業を提供できますがいかがですか？」とお話しすると、学級担任の先生に確認し、すぐにやってみたいとお返事をくださいました。このような機会を逃さず、子どもたちのために交流を始めようとしてくれた両校の学級担任の先生方の機動力に敬意を表したいと思います。

今後は、えさん小からスクールバスで本校に来校し、聴覚障がいや手話・指文字について学んでくれることになっています。本校に来てくれることも本当に嬉しいことです。聴覚障がいや聾学校を理解し、聾学校で学ぶ子どもたちと交流してくれることは、少人数で勉強している本校の子どもたちにとっては嬉しく有意義なことだと思っています。また、えさん小の子どもたちにとっても貴重な体験になるでしょう。このご縁を機に、お互いの学びをより深められる「交流及び共同学習」に結び付いていってくださることを祈っています。

【函館えさん小と函館聾が交流学習

えさん小体操に挑戦

体力向上、正しい姿勢へ

【函館発】函館市立えさん小学校（長浦紀華校長）

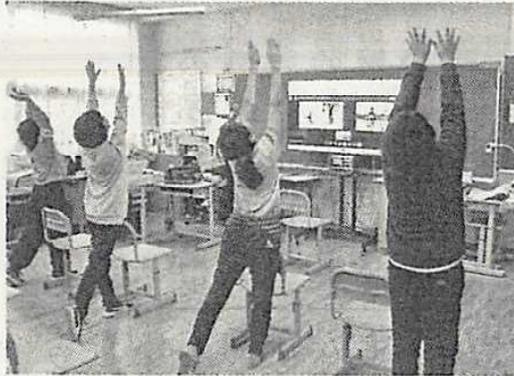
と函館聾学校（門真義弘校長）が14日、オンライン交流学習を行った。体力向上に向けて「えさん小体操」

生徒が体育授業で取り組んでいるダンスをお披露目。

2年生はコンクール出場曲を発表し、上級生や下級生から「全体的にそろっていて素晴らしい」との評価を受けた。

コンクール本番では事前収録した動画がYouTube公開チャンネルで配信され、審査が行われる。

生徒の川瀬楓真さんは「全国に行くからには入賞したい」、小山内陽人さんは「みんなで協力して頑張ってきた。良い結果を残したい」と審査を心待ちにする。



体操後は両校の児童が「また来週」と覚えたい手話であいさつ。函館聾の児童2人は「とても楽しかった」、えさん小の泉心葉さん（5年）は「新しい手話を教えてもらえた。えさん小体操を覚えてくれてうれしい」と笑顔を見せた。

を体験した「写真」。

えさん小では本年度、児童の運動習慣や正しい姿勢の定着化に向け、道教育大学札幌校との共同研究で「えさん小体操」を開発。

児童は毎日下校前に体操に取り組んでいるほか、マラソンや縄跳び等を通して体力向上を図っている。

同校の取組に興味を抱いた函館聾の門真校長が児童の体力づくりや協働的な学

びの充実に向け、交流を希望したのを機に実施した。

オンラインによる交流は7、12、14日の3日間。うち14日は、えさん小の高学年児童10人と函館聾の3、5年生が参加。両校の児童は画面越しにあいさつを交

わし、函館聾の児童から「おはようございます」「また来週」などの手話を教わる場面もあった。

学習では、えさん小が制作した体操の動画を画面共有。児童らは背筋を伸ばす運動や足を上下に動かす筋力トレーニングで体を動かした。